

令和2年度 学校評価書（最終評価）

スローガン 「人・もの・未来をつくる。」～CoCoLo（こころ）の教育～
CoCoLo（こころ）の教育=Communication×Collaboration×Logical thinking

評価基準 A 目標を上回った B ほぼ目標通り C 目標を下回った

玉野市立玉野商工高等学校								
学校経営目標等	現状分析	今年度の達成基準	具体的計画	自己評価（中間）	評価	自己評価（最終）		
重点目標								
1. どのように学ぶか								
(1) CoCoLo（こころ）の鍛錬のために、キッズビジネスタウンたまの企画・運営への生徒の参画を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度、機械工作部の生徒が中心となり、「大工」と「ものづくり工房」ブースを運営できた。今年度は2、3年生全員が主体的に参加できるように授業の中で、キッズについて考えさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート、「自分は、授業中に地域の課題について考えることがある」項目で肯定的回答が50%を超える。昨年度は学校全体で37%が肯定的回答をしている。人間関係形成力レベル3.5を目指す。昨年度の機械科は3.2。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生の実習で、レーザー加工機の操作、活用について扱い加工技術を習得させる。 3年生の実習で、キッズのブース運営について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間関係形成力は3年3.6、2年2.8、1年2.1である。3年が目標の3.5を超えているのは、これまで取り組んできた授業、企業見学、地域貢献活動を意図的にCoCoLo教育と結びつけるとともに主体的に取り組む意義を生徒に説明してきた成果と考える。2年、1年で数値が低いのは、企業見学等が実施できていないため、人間関係形成力育成の機会が減少したためと考える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート、S-8「自分は、授業中に地域の課題について考えることがある」項目で肯定的回答が3年生78.6%、2年生43.2%、1年生62.1%であり、3学年の平均は59.6%であった。目標の50%は達成できたと考え。 人間関係形成力は2学期までで、3年3.6、2年2.8、1年2.1であった。2年、1年についてはコロナ対策としての授業内容の変更もあり目標の3.5は達成できなかったと考える。 	B	工業科
	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度までは、課題研究の講座単位でキッズビジネスタウンたまの取り組みを行っていた。 そのため、10月頃からの取り組みとなり、メニューやゲームなどを生徒が考え、少しでも生徒が企画に取り組めるよう工夫はしていたが、生徒がじっくりと企画・運営に取り組むことが難しい状況であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生を中心として、生徒のキッズ実行委員を軸に、1年生2年生も向らかの形でキッズビジネスタウンたまの参画することができる。 GROW UPシートを活用し、「創造力」「他者理解力」「人間関係形成力」の項目について、振り返りの数値が3以上の生徒の割合が、3年生で80%を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合実践の授業において、動画や写真、要項、アンケート結果などから、生徒にキッズビジネスタウンたまの全体像を理解させ、そのうえで改善点や提案などを話し合わせる。 それぞれの担当部署において、リーダーを中心に、今年度の企画・運営に取り組めるよう支援する。 実施後の振り返り、次年度への改善や提案などを話し合い、2年生へ引き継ぎを行わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合実践の授業において、要項等の資料からキッズビジネスタウンたまの全体像を理解させ、既存ブースでの自分達の提案などを話し合いまとめている。 来年度の企画・運営に向け、新たなブースの提案や具体的な取り組みを示し、次年度へ引きつづけるよう支援する。 現在GROW UPシートに目標を記入し、既存ブースへの新たな提案や、街へ出ての実施への可能性を話し合っている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 3年生は総合実践の授業において、既存ブースでの内容改善案と、学校外で実施することを想定した新たなブース案の企画を話し合い、全学年で生徒キッズ実行委員会を開催した。 GROW UPシート「創造力」「地域文化理解力」「人間関係形成力」の項目について、振り返りの数値が3以上の3年生の割合が90%となり、コロナ禍で実施はできなかったが、地域の企業や小学生とできることを、互いに協力して来年度への準備に取り組めたと感じている。 	A	商業科
(2) CoCoLo（こころ）の鍛錬のために、中学校との合同スマホ学習会を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> スマホの使用についてのアンケート実施に向けて生徒会生徒が玉中学校と打ち合わせを行っている。 本校生徒に昨年度、スマホ使用についてのアンケートを実施した。玉中学校へのアンケートは未実施である。両校のアンケートがそぞい次第、集計分析を行う予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> 玉中学校と協働でスマホ使用のアンケートを実施・分析し実態把握を行い、スマホ学習会の内容の検討を行う。系統的な実施に向けて取り組みを行う。（地域文化理解力） 実施後に生徒会執行部・執行委員の生徒にアンケートを取り、「スマホアンケートの目的を理解している」と答えた生徒が80%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期中にスマホアンケートを本校と玉中学校とで行う。（地域文化理解力） 2学期中に分析内容の検討を行う。 3学期中に玉中学校と打ち合わせを重ねて次年度に行う具体的な取組を決定する。 今回の取組の内容に対するアンケートを生徒会執行部・執行委員に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワーキンググループの会議を通して今年度の取組の立案を行った。 アンケートの実施分析を行った。2時1時～22時が使用時間が最も多く全校生徒の35%以上が5時間以上の使用。生徒会主体で利用の仕方について呼びかけていきたい。 年度内の取組実施に向けて玉中学校と連携を図り、具体的な取組を実施していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> スマホアンケートを本校と玉中学校とで行い分析を実施し、ワーキンググループ等を通して生徒会でスマホ生徒出陣授業の立案を行った。 今回の取組の内容に対するアンケートを生徒会執行部・執行委員で実施し、スマホアンケートの目的を理解していると答えた生徒が100%だった。 	B	生徒指導課
(3) CoCoLo（こころ）の鍛錬のために、生徒の主体性を生かした学校行事（雄心祭等）や委員会活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 本年度の雄心祭の内容を大幅な変更を検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会主体で雄心祭の内容を検討し、実施していく。（人間関係形成力） 雄心祭後に生徒会執行部・執行委員の生徒にアンケートを取り、「雄心祭を行うにあたり主体的に発案・実施を行えた」と答えた生徒が80%以上である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会で生徒主体で雄心祭内容変更検討会議を重ねて起案し実施していく。また実施後に変更内容の再検討を行い次年度にいかしていく。（人間関係形成力） 雄心祭後に生徒会執行部・執行委員にアンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナ感染対策を講じた上での雄心祭の計画を行った。 生徒会執行部によるアンケート実施から、実施可能な内容を生徒主体で起案した。ステージ発表→動画製作 ステージ発表→動画製作 展示→階段アート 実施後のアンケートは現在集計中。 雄心祭成功に向けて生徒間で連携を図り準備を進めている。（人間関係形成力） 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナ感染対策を講じた上での雄心祭の計画・実施を行った。 生徒会執行部による全校生徒アンケートから、実施可能な内容を生徒主体で起案した。ステージ発表→動画製作 展示→階段アート 実施後の全校生徒のアンケートでは80.3%の生徒は楽しかったと回答した。 実施後の生徒会執行部のアンケートでは100%の生徒が主体的に発案・実施を行えたと回答した。 コロナ禍でありながらも生徒の意見も取り入れ十分な検討を行い教育効果の高い雄心祭を実施することができた。 	A	生徒指導課
	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナの脅威により社会生活や学校生活が年度当初から脅かされている。改めて衛生管理や健康管理が重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナ対策の周知徹底や衛生生活や免疫強化の基本になる食生活等、取り組んでいく。委員会の活動満足達成度70%を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 美化委員会による衛生に関する取り組みや、保健委員会による健康管理の取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、目に見えないウイルスに対する衛生管理、マスクの着用、三密の回避に取り組み続けている。感染症対策臨時学校サポートスタッフの協力も得て、消毒等の環境整備も充実している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナ感染対策におわられた1年で、色々な情報に基づいて対策を行った。 美化委員会による衛生に関する取り組みや、保健委員会による健康管理の取り組みを行った。 	A	保健厚生課
(4) CoCoLo（こころ）の鍛錬のために、新たな地域貢献活動（五輪聖火リレー等）の参画を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 5月21日（木）に予定されていた「五輪聖火リレーボランティア」が新型コロナウイルスの影響で延期となっており、本年度の参画は難しい現状にある。その他の地域貢献活動も、本校生徒の多くが参加してきた「たまの港フェスティバル」も本年度は休止となった。本年度の地域貢献活動自体、新型コロナウイルスの影響で当面の間自粛傾向となること予想されるが、実施可能な範囲で新たな地域貢献活動参画を企画したい。昨年度末に玉野市総務部協働推進課より「市制80周年 絵本制作事業」の依頼を受けており、現在はこの企画に参加することで新たな地域貢献活動の参画を推進したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 市制80周年 絵本を完成させる。 参画した生徒の「地域文化理解力」が向上したという肯定的な回答が80%を超えている。（※絵本作成の目的は玉野市のため地問題を解決するため） 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究（「デザイン制作」）の授業でプロジェクトを立ち上げ取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 市制80周年絵本は中止となったが、他の新しい地域貢献活動として、「感謝・応援メッセージカードづくり」ボランティアや、「玉野に欲しい市民会館を参画しよう」ワークショップなど、生徒主体で主催者と連携しながら実施した。「地域文化理解力」が向上したと答えた生徒の肯定的回答が82.3%となっている。 11月以降、新たな取組として「宇野港開港90周年記念式典キヤンドルナイト」、「船底の記憶ワークショップ」への生徒の参画を予定している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の影響で例年実施されていたボランティアも縮小傾向となり、参加生徒数は191名（49.2%）であった。参加生徒のアンケート結果では「地域文化理解力」が向上したという肯定的な回答は82.3%となっている。 新たな取組として「舟底の記憶ワークショップ」を本校を会場に開催した。今後、瀬戸内国際芸術祭にも関連づけ、生徒の主体的参画が可能となる継続した取組となるよう主催者側（作家：小沢氏）に働きかけ、協力への了承をいただいている。 	A	総務課
(5) キャリアデザインのために、インターンシップ発表会の一般公開を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 1年末の進路希望は就職希望が59名、進学希望が59名、残りの生徒が未定である。 新型コロナウイルスの影響により、インターンシップの実施が危ぶまれるが、実施に向けて準備を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ発表会を実施する。 自己評価アンケート（生徒）「インターンシップを通して、具体的な進路目標を考えるきっかけになっている」と答えた生徒が全体の80%を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来について具体的に考え、主体的にインターンシップ先を決定させる。 インターンシップ実施後のまとめや振り返りをしっかりとさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップが中止となったため、具体的な進路目標を考えるきっかけにするため、職業インタビューを3月に実施予定である。 	C	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップは中止となったが、総合的な探究の時間に、希望する進路に関するSDGsの取り組みについて調べ、発表会を行った。 就職希望者は3月に企業訪問と職業インタビューを実施し、進路選択の参考に予定である。 	B	2年団
(6) キャリアデザインのために、自己の成長をマネジメントする未来手帳の活用から小中学校への出陣授業の推進を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 記入内容を分類すると、学校行事・・・13%、宿題・提出物・・・20%が最も多い。しかし、日々の予定を毎日見直している生徒は10%程度であり、予定を意識している生徒は36%と低い。日々の予定を確認し、計画的に行動する事が出来ていないことに、繋がっている。 また、「私の夢宣言」の記入について、把握が出来ていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の予定を毎日見直し、計画的に行動できるようになる。 日々の予定を毎日見直している・・・70%以上 予定を意識している・・・70%以上 「私の夢宣言」の記入と、学期ごとの振り返りが出来ている。 振り返りが出来ている・・・90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 行事予定表を配付し、予定の記入・確認をさせる。 毎朝のSHR、終礼で手帳を開き、予定・提出物を確認させる。 学期末には、「私の夢宣言」の学期ごとの振り返りをさせる。 HRで記入する時間を設け、机間巡視により良い記入例をピックアップする。各クラスへ良い見本として掲示する。雄心祭で、コンテストを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「日々の予定を毎日見直している」の肯定的回答が47%「予定を意識している」の肯定的回答が58% 毎朝のSHR、終礼で手帳を開き、予定、提出物を確認することを徹底しきれていないことが考えられる。根気強く指導をしていくことが必要である。 デジタルサイネージの活用のもと主体性を育みたい。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 「日々の予定を毎日見直している」の肯定的回答が40%「予定を意識している」の肯定的回答が56%どちらも数値が下がっている。手帳の活用を各HRで指導していただいているが、変化がみられない。 	C	生徒指導課
(7) キャリアデザインのために、キャリアパスポートを奨励したe-ポートフォリオを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 現状では、キャリアデザインのためにキャリアパスポートではなく手帳を生徒に持たせ、学校生活のスケジュールを管理させており、目標の設定から実施の記録、そして振り返りに活用している。様々な学校活動の記録は、その都度呼びかけているが、記録させるための時間は生徒各自に任せられている状況であり、記録の徹底が課題である。大学入試改革とも関連しており、e-ポートフォリオ導入を準備している状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校のキャリアパスポートを作成する。 e-ポートフォリオを導入し、ハード面とソフト面の環境を整える。 ハード面とは、e-ポートフォリオを具体的に整備することである。具体的には、設定や登録についての整備をする。 ソフト面の環境とは、1年間の動きを計画的に整備する。具体的には、生徒の目標・実施・記録、そして振り返りの動きを計画的に整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が、3年間の進路を見直しを確認できるように1年生から3年生までの進路指導のつながり意識したキャリアパスポートを作成する。 e-ポートフォリオを業者の運営する仕組みを活用する。 e-ポートフォリオを活用した進路指導の形を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> e-ポートフォリオの仕組みを今年度導入し、運用できる具体的な取り組み内容をスケジュールの中に入れ、具体的な流れを構築する必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> e-ポートフォリオの仕組みを今年度導入して1年目であったが、大学入試改革の具現化によりこの運用が停止となった。この動きに伴い、運用できる具体的な取り組み内容を構築する必要性が失われた。 ポートフォリオの重要性に変わりではなく、その対応として今年度から3年生についてキャリアパスポートを生徒一人一人に持たせることで代わりに活用した。 	B	進路指導課
(8) キャリアデザインのために、地域就職促進に向けた生徒による商工観光課との連携調査事業を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 現状では、2年生で実施されるインターンシップでは商工観光課との連携した取り組みとなっている。3年生では、就職希望者を対象にマリン玉野産業フェスの実施に商工観光課との連携行事として実施されている。今後、玉野市の地域活性化に向けた取り組みに玉野商工高校との協力をさらに推し進める事業計画を模索している。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生でのインターンシップ事業を生徒の進路指導との関連させ推し進める。 3年生において商工観光課の主催する企業ガイダンスを実施する。 たまの高校生地元就職促進実証研究事業が令和2年度より3年生を対象に実施される。この事業を3年生就職希望者に多く適用することができ、生徒の就職活動が地元企業に就職者が増加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き、2年生のインターンシップ事業を年間の計画に基づきながら今年度の状況に対応した計画を商工観光課と連携して模索していく。 3年生・その保護者へ「たまの高校生地元就職促進実証研究事業」について説明会を実施し、就職希望者の手続きやこの事業に関連する企業ガイダンス 応募前職場見学を実施する。 就職内定率を100%、そしてこの事業の目的である地元就職率を向上させる。その目標値を50%を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在までの社会状況や経済状況の大きな変化によって受けた進路指導の取り組みへの影響から今後のより良い進路計画を進めるため修正する必要がある。 現時点で就職内定率79%、進学内定率87% 	B	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップは、今年度実施される環境が整わず、実施に至らなかった。ただ、インターンシップに代わる行事を模索しており、実施可能な条件を整理しながらスケジュールの変更や内容の修正や実施時間を確保し、3学期は3月上旬に企業訪問の実施にむけを模索している。 	B	進路指導課

令和2年度 学校評価書（最終評価）

スローガン 「人・もの・未来をつくる。」～CoCoLo（こころ）の教育～
CoCoLo（こころ）の教育=Communication×Collaboration×Logical thinking

評価基準 A 目標を上回った B ほぼ目標通り C 目標を下回った

玉野市立玉野商工高等学校

学校経営目標等	現状分析	今年度の達成基準	具体的計画	自己評価（中間）	評価	自己評価（最終）	評価	総合評価	関係分掌
重点目標									
2 実施するために何が必要か									
(1)家庭・地域住民・小中学校・地域企業・自治体との連携強化を全教職員が参画で行う。	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携について「機械科実習」や「課題研究」、「総合的な探求の時間（インターンシップ）」や「発達と保育」などで盛んに行われている。しかし一部の教科科目の取り組みとなっており、全教職員が関わる機会が少ない。 教職員がより主体的に地域に参画し、協働して生徒を育てる場面が少ない。ボランティア参加生徒が多い反面、引率参加する教職員が少ない現状にある。 本年度は学校運営協議会の深化を目標として全教職員の参画を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会への参画、ボランティア引率、中学校訪問、学年通信、クラス通信の発行、商品開発など、地域との連携強化を意識した取り組みを行った という肯定的な回答が80%を超えている。 総務課通信（CoCoLo通信）を年12回以上発行する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会のWGへ全教職員が参画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 7月に教職員の学校運営協議会への研修会を実施し理解を深めた。 「理解できたと答えた教職員」の肯定的回答が93%。 本年度は、全教職員が学校運営協議会の各WGに所属することで、昨年度より一人ひとりが目的意識をもって参画している。全体会や各WGの小委員会に参加する教職員も増えている。 総務課通信（CoCoLo通信）の発行が2回と少ない。従来の地域貢献活動を通じた内容から、それ以外の本校の取組や魅力を校内外に伝えるものを発行する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議等で、学校運営協議会や各WG小委員会の協議内容について報告、説明を行い共通理解を図った。学校運営協議会について「理解できたと」肯定的な回答が93%となっている。教職員全員を各WGに位置づけたことで、WG3では協議テーマであるボランティアについて、実際に引率や見学に参加する教職員も増え参画意識が高まっている。 	B	A	総務課
(2)連携・協力に向けたクラウド環境（G Suite for Education）の活用を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用は、全普通教室においてタブレットコンピュータを無線LAN環境で使用可能となっているが、G Suiteの利活用については、現在は整備段階となっている。またwi-fi環境の整備が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> G Suiteによるクラウド環境を整備し、双方向で利活用できる体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月より随時G Suiteの設定（生徒アカウント登録）を両科の授業内で実施する。 一部の授業で試験的に活用し、校内研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月にG Suite「フォーム」を用いた課題の作成方法についてマニュアルを作成し研修会を実施した。5月以降、遠隔授業を想定した研修を進め、7月にはMeetによる授業方法についてマニュアルを作成し、各教科科目で実施した。8月に遠隔授業実施に向けて、生徒自宅での接続確認を行った。学校としてAP（アクセスポイント）の整備も進み、ファアウェイからスマートボードやタブレットの寄贈も受け、現在はGIGAスクールプロジェクトを立ち上げ、総務課メンバーを中心に、タブレット端末導入と利活用に向けた体制構築に向けて取組を進めている。 オンライン授業を受けるためのWi-Fi環境が自宅に整っている肯定的回答が91% 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初からクラウド環境整備に取り組み、適時研修会等を実施した。2学期からはGIGAスクールプロジェクトを立ち上げ、現在のICT環境の整備や、次年度のタブレット端末導入に向けた研究を進めている。10月よりデジタルサイネージの運用を開始し、連絡事項の表示、授業や様々な学校行事でも活用できる環境を整えた。HUAWEIから寄贈されたホワイトスマートボード（アイデアハブ）とタブレット、教職員用のタブレット端末の導入整備も完了させ、来年度4月より授業等で活用できるように、1月に研修会を実施した。 	B		総務課
(3)新教育課程案（両科融合・総合的な探究の時間の在り方・専門性の系統的深化）の作成を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習で1・2年はマナトシ、3年は進路学習を行っているが、職員朝礼と重なっており、教員がついて指導できていない状況である。そのため、基礎学力の向上につながっていない生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の時間の内容が、総合的な探究の時間でカバーされる9つの力のうちの基礎学力向上（読解力や漢字力や計算力など）につながるように変更し、より効果的な時間となるよう検討を重ね、新教育課程に組み入れることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 議員の一人一人が、自分の所属する学年団の朝学習の内容を検討し、基礎学力の向上につながる内容の一つ以上、課会議で提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> 議員一人ひとりが朝学習に対する内容を検討し、コグトシ、言語カトリル、朝読書、百マス計算、数字漢字書き取り、電卓入力練習など基礎向上に向けた内容を課会議に各自一つ以上提案した。 今後、全教員にもアンケートを行い、課内で検討した案を職員会議に提出する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教務課でまとめた朝学習の内容の原案を学年団で検討し、令和3年度から実施できるように職員会議に提案する。 	B	教務課	
(4)戦略的広報（総務課企画・中学校等へのアンケート調査）を全教職員の参画で行う。	<ul style="list-style-type: none"> 例年の実績をもとに係を中心に管理職・課長・主任で広報活動を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ポイントを絞った新たな広報活動を行い、志願者数が昨年度を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校教員へのアンケートを実施し、各種データを活用した広報活動を行う。 より効果的な広報活動を行うため、生徒の力を活用する。 「広報たまの」へのPRを行う（毎月1回掲載）。 市内商業施設や公的施設、塾などへのポスター掲示する。 予算が許せば、学期に一度、近隣中学校の3年生全員を対象にフライヤー（A5サイズ）による広報チラシを配布する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度から各中学校ごとに、総務課内で担当教員を割り当て広報活動等を実施した。現状分析のため、本年度より市内全中学校（直島中学校含む）の教職員と生徒にアンケートを実施し分析を行った。今後経年で情報収集を行い戦略的広報に繋げる。新型コロナの影響もあり、新たな広報活動として、Web上でのオープンスクールの開催を実施し、情報発信を行った。コンテンツとして卒業生の近況や在校生からの声をアピールし生徒たちの活躍を紹介する場ともなっている。また「広報たまの」に毎月本校の特集ページを企画し掲載している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 4月より、市内全中学校へのアンケート調査や、積極的な広報活動を実施したが、進学希望状況の第一次調査結果では志願者数が前年度を大きく下回っている。今後、入試までの機会を捉えて本校のPRにつながる活動を実施し、志願者数増加につながる手立てを実施する予定である。市内小中学生を対象とした「第1回玉野商工アワード」や、天満屋メルカで実施する「キッズの街inメルカ-2021-」などを通して広報活動を実施する。 	C	総務課	
6)いじめ防止推進の取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの延長から、からかいや、いじりによりいじめと受け取られる事案がある。 SNSでの、言葉の行き違いがある。 情報収集ができず、タイムリーな指導ができていない。 困っていることを伝える場面が少ない。 いじめアンケートの実施は、年3回行っている。（昨年度、3学期未実施） 	<ul style="list-style-type: none"> 『ひとに優しく、自分に厳しく』の意識を持ち、穏やかな学校生活を送ることが出来る。 困ったときに相談できる相手が、学校内にいる。 <ul style="list-style-type: none"> ・・・90%以上 思いやりや命の尊さを大切に、いじめは許さないという意識がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・・・90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートの実施を、各学期1回行う。何かあれば、学年団と情報共有し、対応する。 全校・学年集会での呼びかけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「困ったときに相談できる相手が、学校内にいる。」の肯定的回答が91.2% 「思いやりや命の尊さを大切に、いじめは許さない」という意識がある。」の肯定的回答が87%。意識していないと答えた生徒が16名各種学校行事、クラス活動、部活動等を通じて、仲間意識を高めることを継続する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「困ったときに相談できる相手がいない」・・・0%であり、相談相手は、同じクラスの人・家族・他のクラスの人順に多い。 「思いやりや命の尊さを大切に、いじめは許さない」という意識がある。」の肯定的回答が89%であり微増。「意識していない」と答えた生徒が13名に減少した。 	B	生徒指導課	

令和2年度 学校評価書（最終評価）

スローガン 「人・もの・未来をつくる。」～CoCoLo（こころ）の教育～
CoCoLo（こころ）の教育=Communication×Collaboration×Logical thinking

評価基準 A 目標を上回った B ほぼ目標通り C 目標を下回った

玉野市立玉野商工高等学校

学校経営目標等	現状分析	今年度の達成基準	具体的計画	自己評価（中間）	評価	自己評価（最終）	評価	総合評価	関係分野
重点目標									
3 生徒にどのように支援するか									
(1)わかる授業の実践（ユニバーサルデザインを取り入れた授業作り・教科横断した研修）を行う。	<ul style="list-style-type: none"> これまで、授業の目標・流れを初めに示す、その作業の時間を明示する等を行ってきた。 本時の目標、流れを必ず板書するようにしている。ICTをできるだけ活用するようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期に2回は、ICT教材を使う。 授業アンケートの「授業の内容がわかる」項目で生徒の肯定的回答が70%を超えるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 古典や、現代文でも内容に関係あるものに関して学期に2回は、ICT教材を使う。 授業ルーティーン確立、基礎学力補充の充実・ICT活用・グループワーク、話し合い、学びあいの活動の充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体として、ICTを使った授業は、学期2回程度行うことが出来た。 授業ルーティーンは改善を加えながら変更もある。公民科・地理それぞれ副教材を利用した基礎学力補充ができており継続していく。世界史については来年度以降も再考の必要がある。ICT活用はほぼできているが、反転授業の取り組みも取り入れるなど、G Suiteの活用も今後も検討していきたい。学び合いも単元に応じて取り入れている。授業アンケートが実施できていない。全体のアンケート評価は「わかりやすい授業展開」の肯定的回答が77.5%。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 計画通りに進められた。 授業評価の肯定的評価91.3%であった。授業ルーティーン確立、基礎学力補充の充実が必要である。 ICT活用・グループワーク、話し合い、学びあいの充実については不十分な部分もあった。 	B		国語科 地歴公民科
	<ul style="list-style-type: none"> 授業工夫は各個人で行っているが、ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりに欠けるところもある。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学科UD3（スリー）を実施することにより、「できた」「解けた」「分かった」と感じる事ができる。 アンケートを実施して、肯定的回答が60%を超えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 次の3点UD3(ユニバーサルデザイン3)に留意し、授業を展開する。 ①数式だけではなく、ICT機器の利用または図を使って示す。(視覚化) ②「どんな目的で、何を、どのように、どこまでするか」を生徒が的確に把握できるようにする為に「授業の目標」「授業の流れ」を板書する。(構造化) ③グループ（ペア）ワーク・学び合い、または教え合いをする。(協働化) 	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの授業で、UD3に留意し授業を展開している。アンケートでは「ユニバーサルデザインを意識した授業を行っている。」と回答した人は全体で肯定的回答が86.0%となっていた。この値に数学科も貢献できていると感じている。しかし、一部の単元によってはUD3を実施できていないこともあるが、主体的・対話的で深い学びに向かって確かな手ごたえを感じている。今後、研究授業等をととして、授業の質を向上させていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 数学科UD3(スリー)を実施することにより、アンケートでは「ユニバーサルデザインを意識した授業を行っている。」と回答した人は全体で肯定的回答が80%となっていた。この値に数学科も貢献できていると感じている。小テストや定期考査において問題を解こうとする姿が解答に表れていた者が昨年度に比べて増えているように感じた。 	B		数学科
	<ul style="list-style-type: none"> 動的な説明を必要とする内容では視聴覚教材を用いるように努めているが、ユニバーサルデザインを取り入れた授業作りにおいては不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業についてのアンケートを行い、肯定的な回答が70%以上になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標・授業の流れの板書・確認をする。 H/R教室で行う授業におけるICTの活用を行う。 グループワーク・ペアワークの充実をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標や授業の流れについては、板書し、確認した。視聴覚教材の活用も積極的に行った。今後は、グループワークやペアワークを充実させていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標や授業の流れについては、板書し、確認した。視聴覚教材の活用も積極的に行った。 	B		理科
	<ul style="list-style-type: none"> PCや視聴覚教材を用いて、視覚に訴える授業を展開している。 TTによって技術的レベルが低い生徒や人と接することが苦手な生徒への支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 動き（方）・学んでいる内容が分からない、一人ぼっちになってしまう生徒の数が0（ゼロ）になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業初めに単元目標や長期的な目標を設定する。 PCや視聴覚教材を用いる。 体育では複数の教員で対応できる授業ではTTで授業にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健ではプロジェクトなどを使用し、展開できている。体育ではTTにより効率的、効果的な指導ができていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業実践について科目保健ではPCや視聴機器を使用し生徒の興味を引きながら行った。科目体育でもコロナ禍での制限もあったがTTでの指導がしっかりと行えた。 	B		保健体育科
(1)わかる授業の実践（ユニバーサルデザインを取り入れた授業作り・教科横断した研修）を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 個々の教員がわかる授業の実践のための工夫をしているが、有効な手立てを教科内で充分に共有できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で「わかった」「できた」という実感が持てるようになる。(アンケートの肯定的回答が80%を超えている)。 	<ul style="list-style-type: none"> 次の4点を意識した授業を行う。 ①時間の構造化（授業の流れとめあてを示すなど） ②情報伝達の工夫（挿絵、写真等による情報の視覚化など） ③参加の促進（ペア学習・グループ学習で思考を深める、意見の再現・解釈・比較検討等をするなど） ④授業内容の焦点化（説明・指示の簡素化、「山場」を意識した授業づくりなど） 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的計画のうち①②④については概ねできている。③については意見の再現、解釈、比較検討は概ねできている。同じく③について、ペア学習・グループ学習はほとんどできていないが、スピーキング活動や短文のライティング活動を単元毎に取り入れつつある科目もある。 アンケートでは授業について「わかった」「できた」と肯定的回答が88%。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学年とも、具体的計画①～④をふまえた授業ができた。 ペアやグループでの学び合いの時間を持つことがあまりできなかった。 	B		英語科
	<ul style="list-style-type: none"> 保育のふれあい体験や福祉の外部講師による実践など、よい取り組みをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は開催できるか不透明な部分があるが、開催できた場合は、安全な時期に速やかに実施できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ふれあい体験を通じて生徒の心の成長が生徒自身でも実感できるように、しっかりと振り返る時間を設けるとともに、お互いに学び合う授業展開とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度はふれあい体験は実施できない。わかる授業の実践としては調理実習の際、動画を見せて説明しながら調理実習を行うようにした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保育では妊婦体験をして、妊婦の気持ちによりそう実習ができた。 	B		家庭科
	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度、プロジェクターやタブレットを活用して視覚化、焦点化と言ったユニバーサルデザインの視座に立った視覚的な支援は多くの科目でできた。しかし、学習内容の振り返りやまとめについては改善できる点も多い。今年度は授業中の振り返りやまとめの時間の有効活用とともに、家庭での振り返りについてももしっかり意識させ知識力を育みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート、「自分は、課題を期限内に提出するなど学習習慣が身につけている」項目で肯定的回答が90%を超える。昨年度は学校全体で86%が肯定的回答をしている。また、知識力レベル3を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のユニバーサルデザインの視点「共有化」、「場・時間の構造化」を意識して、授業中の振り返り、まとめの時間で生徒が発言や発表をする時間を増やす。また、CoCoLoの教育育成したい資質・能力ルーブリック知識力レベル3に明記されている学習習慣について意識させ、教員側の催促がなくとも提出物が出るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識力は3年3.2、2年2.6、1年1.6である。3年で目標を達成できているのは、知識力の向上が地域貢献活動やものづくりに実際に役立っているとの実感があからずいではないかと考える。2年、1年で数値が低いのは、身に付けた知識を活用する機会が少ないためでないかと考える。科内の実習では授業の振り返りの時間で生徒が学習活動を自分の言葉で表現する機会を増やしている。また、提出物については特定の生徒が出ないことが多いので、今後も粘り強く指導していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート、「自分は、課題を期限内に提出するなど学習習慣が身につけている」項は今年度削除となったため数値は不明である。 学校自己評価アンケート、S-17「先生はわかりやすい授業になるように工夫している」で肯定的回答が3年生82.1%、2年生75.7%、1年生89.7%で3学年の平均は81.9%であった。知識力は2学期までで、3年生3.2、2年生2.6、1年生1.6であった。3年で目標の3を達成できている。 	B		工業科
	<ul style="list-style-type: none"> 各科目において、本時の目標を示せていない時間もある。 生徒の学力や理解力にも差があり、授業内容や進捗スピードなども、各科目担当者が工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を、どの科目でも毎時間示し、生徒に毎時間の目標を持たせる。 教材提示装置やPCを有効に活用して、授業内容がわかりやすくなる工夫をする。 授業評価アンケートの「あなたは授業で「わかった」「できた」という実感が持てましたか」の項目で、4または3の、肯定的回答が70%を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を必ず板書したり、プリントに示すなど、生徒がその時間に学ぶ目標をしっかりと持たせる。 教員間の授業見学や情報交換を行い、授業の進め方や、ユニバーサルデザインを取り入れる事例などを相互に学ぶ。 生徒がわかると感じることができるような教材や課題の工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標について、提示をお願いしているが、再度確認しながら、生徒に目標を意識して取り組ませたい。教員間の授業見学があまりできていないので、今後科会議の場で共有したい。教材や課題の工夫については、各先生方が、コロナによるG Suiteの活用を現在も続けていたり、教材の工夫を行っている。今後授業評価アンケートの実施を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各科目において、本時の目標を示し、生徒に毎時間の目標を持たせることができた。 多くの科目において、教材提示装置やPCなどを有効に活用し、授業内容を工夫することができた。 授業評価アンケートの「あなたは授業で「わかった」「できた」という実感が持てましたか」の項目で、4または3の、肯定的回答が87%となった。 	A		商業科
(2)個々の生徒への支援計画と実施（特別支援教育の実践力向上）を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の学校自己評価アンケート結果では「個別の指導計画を活用し生徒指導に役立てる」が指数項目で0.43と最も低い値である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート項目「個別の指導計画を活用し生徒指導に役立てる」が指数項目の値を1ポイント以上に上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師による講演会を年1回以上実施する。 特別支援教育委員会を学期に一度おこなう。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価の中間報告での指数が1.30となっており昨年度の中間報告と比較して0.3上昇した。1学期に川崎医療福祉大学より重松先生を招いてことや特別支援委員会を実施することができたためだと思う。後半に向けて肯定的回答が80%を超えるように学年団やSCと連携を強化したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画を夢宣言シートに変更することで生徒と考える作成できるようにした。 学校自己評価の最終報告での指数が0.56になっており昨年度と比較して0.13上昇したが肯定的意見が0.56と中間申告と比較すると減少してしまっただ。 	B		教育相談室
(3)ルーブリック表による評価を踏まえた教員と生徒及び保護者との面談を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 3年生となり進路の方向は定まっているが、詳しい希望職種や進路先等を決めかねている者が多い。 昨年度の学校自己評価アンケート、「学校で充実感や満足感がある。」の肯定的回答が70%である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート、「学校で充実感や満足感がある。」の指数が上昇、さらに「進路実現後も目標を持って生活できている。」の肯定比率を80%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導課との情報を共有し、生徒及び保護者への情報を提供する。生徒面談で助言を行い、生徒の目的意識の高揚を図る。保護者懇談会や三者懇談会で、進路希望のミスマッチを防ぎ、生徒の進路実現を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 「進路実現後も目標を持って生活できている。」の肯定的回答が昨年度に比べて75.4%と上昇している。卒業後の進路が明確になった生徒には「合格したら終わり」でないと継続した生活指導を徹底していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 多くの場面でコロナの影響が伺われたが、卒業後の進路も明確になるにつれ「学校で充実感や満足感がある。」の指数は0.78に上昇し、さらに「進路実現後も目標を持って生活できている。」の回答が肯定比率89%と、生徒の取り組みに達成感を持たせることができた。 	B		3年団
	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度末に行った「自己振り返りアンケート」（生徒）の集計結果において、「キャリア実践力」の項目は2.5となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度末の各項目の全体平均を上げ、特に「キャリア実践力」の平均が2.7を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 面談等で、進路について具体的に考えられるよう助言する。進路希望をふまえ、目的意識を持たせ、様々なことに取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「キャリア実践力」の自己評価（2年）が2.4に下がった。未来手帳の活用頻度が平均値はまだ3ポイントを超えてきたためと思われる。しかし、進路意識は高まっており、具体的に自分の進路について考え、行動し始めている。今後も情報提供や面談を続け、より良い進路選択ができるように指導していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 2学期末現在、就職希望者62名、進学希望者79名、未定者2名であり、未定者が減少した。 進路意識は高まっており、具体的に自分の進路について考え、行動し始めている。 	B		2年団
	<ul style="list-style-type: none"> 4月当初に行った「中学校の振り返りアンケート」では、特にコミュニケーション力の3つの項目が全体的に2～3と低い。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション力の3つの項目の各平均が、3を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 面談やLHRを使い、クラスや学年でより多くの他者と関わる場面を多く設定し自己理解・他者理解を深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「コミュニケーション力」の各項目全0.1～0.3ポイント上昇したが、平均値はまだ3ポイントを下回っている。年度当初より、適度な距離感を持って関わるようになってきた。自己を律する姿勢や、他者を思いやる言動がまだ少ないため、引き続き他者と関わる機会を多く設定していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事やLHRなどを通して、他者と関わる機会を重ねることによって自己理解や他者理解が少しずつ進み、受容できるようになってきた。 集団の中での適切な言葉遣いや行動には課題が残る。 	B		1年団

B